

※消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査と下部消化管内視鏡検査があります。

1. 上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指し、口または鼻から先端に小型の CCD カメラが付いた内視鏡を挿入し、これらの部位を一連の検査で観察します。

一般的に「胃カメラ」と言われてきたものです。

これらの部位を観察したり、細胞等を採取して検査したり、病変を内視鏡的に切除することも可能です。

2. 下部消化管とは、大腸(結腸と直腸)と小腸を指し、肛門から先端に小型の CCD カメラが付いた内視鏡を挿入し、大腸(結腸と直腸)と小腸の一部を観察します。

これらの部位を観察したり、細胞等を採取して検査したり、病変を内視鏡的に切除することも可能です。

※採取した細胞の検査により、結核が判明する場合があります。



(大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当 平成 27 年 11 月 18 日作成)